

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

当院における維持血液透析患者の GLIM 基準による栄養評価と短期生命予後の関連についての後ろ向き調査

2. 研究責任者(当院)

所属：栄養科

氏名：小倉 文子

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：

3. 分担研究者

所属：栄養科 1)、腎臓内科 2)

氏名：飯塚 光 1)、金崎 葵 1)、宮森 陽子 1)、中村 貴子 1)、藤井 隆之 2)

4. 研究対象者

当院で 3 ヶ月以上維持透析中の患者のうち、GLIM 評価を行った 161 名を対象

5. 研究の必要性

透析患者の栄養状態は入院、感染症、生命予後とも密接に関連しており、より正確に栄養状態を評価し介入することが重要です。しかしながら血液透析患者の栄養評価法は確立しておらず、最近本邦では 1 年予後を予測する栄養評価ツールとして NRI-JH が使用されるようになりました。一方 2018 年には国際的な簡易的低栄養診断ツールとして GLIM 基準が確立されたものの、感度が低いなど透析患者での有用性については議論が多いです。

当院では外来通院透析患者に対して 2024 年 6 月より GLIM による栄養評価を開始しており、まずは 65 歳以上に対しては MNA-SF、65 歳未満では MUST による栄養スクリーニングを行い、次に低栄養リスクありに該当した患者には GLIM 基準による重症度評価を行っています。今回の研究では、GLIM 基準による栄養評価が、短期間の生命予後や入院などに関連するかを後ろ向きに検討します。具体的には当院で 3 カ月以上外来透析を行った患者のうち、GLIM による栄養評価を行った 161 名を対象とし、リスクなし、中等度低栄養、重症低栄養の 3 群に分け、生命予後 Kaplan-Mier 法を用いて検討します。また 3 群間の背景因子の相違を検討するとともに、その他の栄養評価法である GNRI、NRI-JH スコアなどの栄養指標とも比較します。これらを詳細に検討することで、血液透析患者の低栄養に対してより正確な介入が可能となり、透析患者の栄養状態の改善、入院リスクの軽減、生命予後の改善につながる可能性があります。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は後方視的研究であり、参加個人への影響はありません。維持血液透析患者の栄養評価を正確に行い、介入することで入院リスクや生命予後改善への対策の一助になることが予想されます。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：小倉 文子

対 応 時 間：9：00～17：00

共同研究において専用窓口がある場合
なし